

学校名：専修学校クラーク高等学院天王寺校

達成度	A	十分に達成した (80%以上)
	B	概ね達成した (60%以上)
	C	あまり十分でない (40%以上)
	D	不十分である (40%未満)

- ※ 評価項目に対応した具体的方策と方策の評価指標を設定する。
- ※ 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を受ける。

学 校 関 係 者 評 価
実 施 日 (令和7年9月8日)
学校関係者からの意見・要望・評価等
・専門的なヒト・モノの環境整備が進み、特化型コースについても定着しつつあると思う。 ・外部コンテスト等への参加は生徒にとって貴重な機会であり、そこで実績を挙げることで自信にもつながっている。 ・個別最適な学びや協働的な学びをより充実させるためには、1年次から着実に取り組ませせることでその定着を図り、検定等を取得させていくことが重要である。 ・生成AIを活用した新たな学習方法を確立し、より効果的に個別最適な学習を実現していくことが求められる。 ・在学中に授業や学校行事などで発表する機会が多く、その経験は大学生活にも活かされているため、今後も継続してほしい。
・外部講師による講演は、生徒にとって良い刺激となる。今後は宇宙ベンチャー企業家の講演を取り入れることで、宇宙ビジネスをより身近に感じられるだろう。 ・探究授業では、普段あまり関わりのない生徒ともグループワークをするため、交友関係を広げる機会にもなっている。 ・不登校の生徒の増加がみられる。スクールカウンセラーだけでなく、外部の専門機関との連携が不十分であることが学校の課題の一つとなっているため、そうした専門機関とのつながりを検討してほしい。 ・外部発信については、企業が生成AIを用いてSNS記事等を作成している事例もあり、生徒にもそのようなスキルを学ばせ、自ら発信する機会を設けるとよい。ただし、ネットリテラシー教育を十分に行う必要がある。
・難関大学への進学希望者も一定数おり、在学中は学習に対するモチベーションが維持されていた。 ・経済的な理由から進学を諦める生徒が出る可能性もあるため、保護者会において進学にかかる費用について、より丁寧な説明が必要である。 ・大学見学の手機会は重要であるが、その時期や回数については、検討、精査することが望ましい。 ・難関大学への進学を実現するために、放課後の時間を活用するなど、学校としてのサポート体制を強化すべきである。 ・大学生活を具体的にイメージできるよう、日常的に大学生と交流（学習支援や生活サポートなど）ができる体制があると望ましい。